

『海紅』（山崎聰第一句集）より

ライターに霧海紅豆花おわる  
鹿の眼の四十はじまる没陽の中  
コーヒールンバ虹の下から犬連れて  
腹這いて紺碧の死をみつめいる  
ハイビスカス鳥の眼で逢う恋人たち  
灯ともりてなお暗がりの海紅豆  
訣れあり昼をよごれて海紅豆  
八月九日雨が降り夜も降る  
川曲るところ翳りて蛇の肌  
墓も見ゆ晩夏は山の音消えて

松村五月抄出